



本校の調査結果の概要

丹波市立和田小学校

和田に誇りを持ち、自立して未来を創る和田っ子の育成
～心豊かにたくましく学び続ける和田っ子に～

1 調査の目的

- ◆義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◆学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◆そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
※なお、この調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面です。

2 調査内容

- ① 教科に関する調査（国語、算数）
出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。
 - ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等。
 - ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等。
調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- ② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
◆学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	◆指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

3 調査実施日

- ◆令和6年4月18日（木）

4 調査を実施した学年

- ◆小学6年生児童

5 学力の状況

顕著な内容を中心に記載しています。

- 印＝全国平均より上回っている内容
- ▲印＝全国平均より下回っている内容

【国語】 本校の平均正答率は、全国と比べて知識及び技能の「情報の扱い方に関する事項」、思考力・判断力・表現力等の「書くこと」において取組の成果が見られました。一方で、「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「読むこと」については課題がみられました。

- 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫する。
- 目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたり、伝え合う内容を検討する。
- 文の中における主語と述語との関係を捉える。
- ▲ 話し言葉と書き言葉との違いに気付く。
- ▲ 漢字を文の中で正しく使う。
- ▲ 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を元に捉える。



【改善の方向】

- ◆ 話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色などを踏まえて適切に使い分けができるよう、話し言葉を書き言葉に書き換えるなどの学習活動を取り入れる。
- ◆ 自分や友達が書いた文章を見直す中で、漢字の持つ意味を辞書で調べたり、前後の関係から、どの漢字を使うのが適切か自分で考えたりしながら、文や文章の中で正しい使い方が定着するような学習活動を取り入れる。
- ◆ 長文を読むときに、大事な言葉やキーワードに線を引いたり、丸で囲んだりするなどして要点をつかむ活動を大切にする。

【算数】 本校の平均正答率は、全国と比べて課題が見られる状況でした。領域別にみると、変化と関係については全国と同程度、図形、データの活用の領域において、全国と比べて課題がみられます。

- 問題場面の数量関係を捉え、式に表す。
- 速さの意味について理解している。
- 円グラフの特徴を理解し、割合を読み取る。
- ▲ 計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述する。
- ▲ 球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表す。
- ▲ 簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理する。



【改善の方向】

- ◆ 図形の学習では、基本的な図形を構成する要素に着目して、図形の性質や図形の計量、図形の構成の仕方について考察できるように工夫する。
- ◆ データの活用では、示された式の中の数の意味を、表と関連付けながら正しく解釈し、それを言葉を用いて記述するなどの学習活動を取り入れる。

和田小学校の学力向上に向けた取組



和田小学校では、教職員で調査結果を分析したうえで、次のような取組を全学年で進め、授業改善に取り組んでいます。

- ① 朝のスタディタイム等を利用して、基礎的な漢字や計算の力を伸ばしていく。定期的に漢字テストを実施し、普段から文章を書く際に漢字を使うように意識づける。
- ② 授業の中で自分の考えや意見文を書かせる際に、字数を制限したり、2段階で書かせたりと、条件をつけて書くことに慣れさせていく。
- ③ 読書の推進を図り、いろいろな文章や読み物にふれるとともに、ブックトークによって、内容のあらすじを要約する力を伸ばしていく。
- ④ 説明文や物語文などの全体の構成を把握することや内容を読み取ることについては、今後も継続してしっかり行っていく。
- ⑤ 図形の描き方だけでなく、それぞれの図形の性質についての理解を深めていく。
- ⑥ 立式の根拠や言葉と図、式を関連づけた説明ができる力、思考を深めるような授業の展開を工夫する。
- ⑦ 算数だけでなく理科や社会でも、表やデータの見方や、それをもとにした事象の特徴を考えたり説明したりできる力を大事にした授業を進めていく。
- ⑧ 効果的に少人数指導を実施し、児童の理解度に適したきめ細かな授業を推進していく。

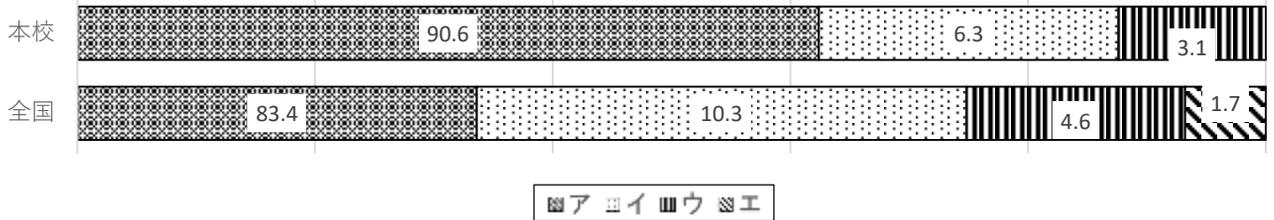
6 学習や生活の状況等

※児童質問紙より抜粋。数字は%です。

(ア)当てはまる (イ)どちらかといえば当てはまる (ウ)どちらかといえば当てはまらない (エ)当てはまらない

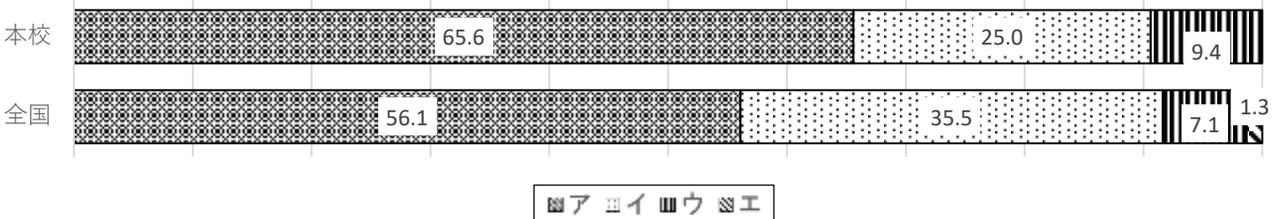
Q 朝食を毎日食べていますか

脳のはたらきはブドウ糖がしっかり供給されることで活性化され、集中力や記憶力が高まると言われています。97%の児童が肯定的回答をすることから、好ましい生活習慣が身についていると言えます。



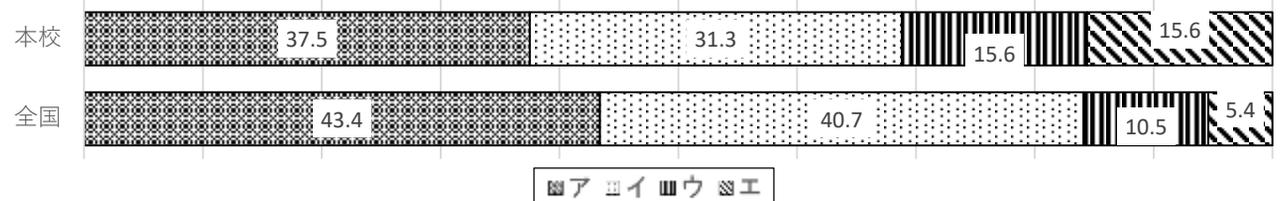
Q 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか

90%の児童が肯定的回答をしています。また、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」という質問にも同様の結果が出ていることから、規則正しい生活習慣を確立している児童が多いということが言えます。



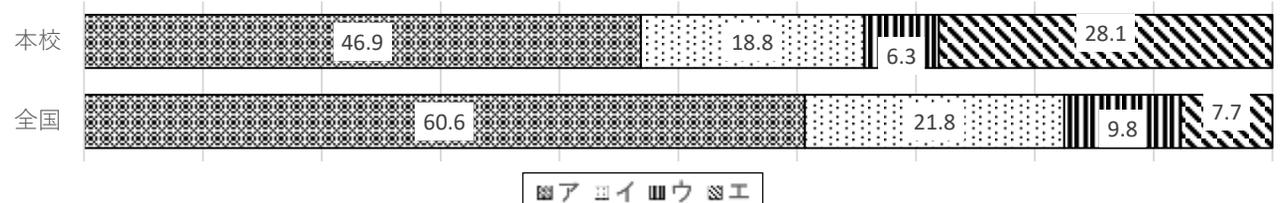
Q 自分にはよいところがあると思いますか

自己肯定感とは、子どもの成長にとって最も大切なものです。自己肯定感が高いほうが、挑戦心や達成感、規範意識や自己有用感に関する意識が高いという分析結果が出ています。褒められたり認められたりする経験が多いほど自己肯定感が育つと言われています。



Q 将来の夢や目標を持っていますか

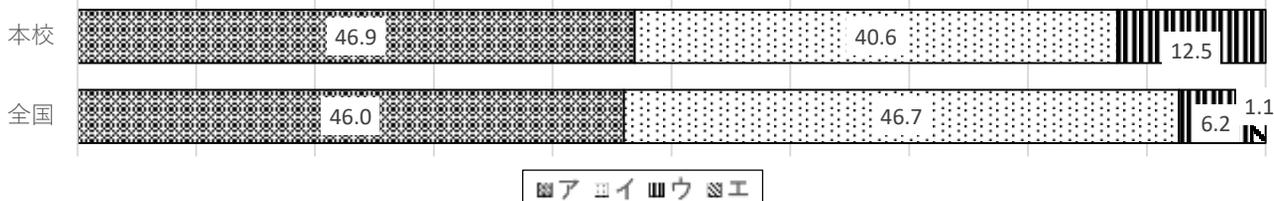
子どもたちが夢や目標を持ち、具体的な計画を立て、その実現に向かって進んでいく力やコミュニケーション能力、課題対応能力等や社会的自立に必要な能力や態度を育成することが大切です。今後も教育活動全体を通じた組織的・系統的なキャリア教育を推進します。



Q 人が困っているときは、進んで助けていますか

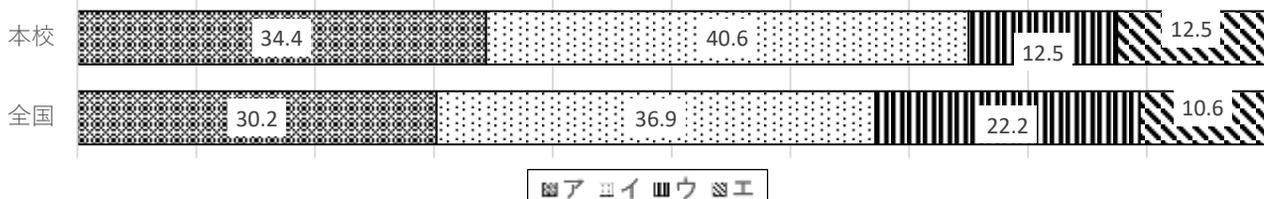
(ア)当てはまる (イ)どちらかといえば当てはまる (ウ)どちらかといえば当てはまらない (エ)当てはまらない

令和3年度から「自分のこととして捉え、他者と共によりよく生きようとする児童の育成」をテーマに研究指定を受けて実践をしています。他者や自己との対話により考えを深める授業づくりの取組が成果として表れてきていると考えています。



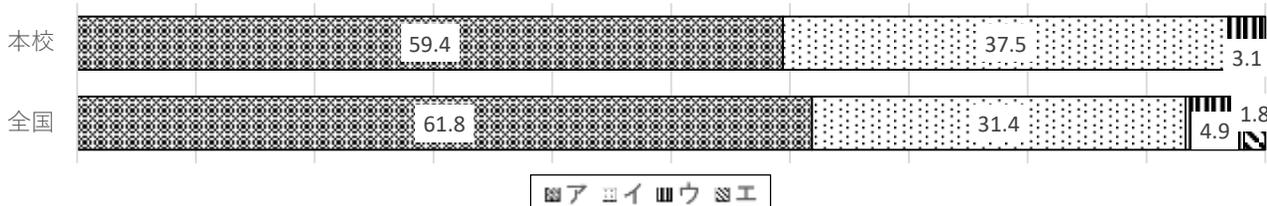
Q 困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか

75%の児童が肯定的な回答をしています。今後も児童が安心して学校生活を送ることができるよう、学級担任はもちろん児童支援担当教員や養護教諭、スクールカウンセラーによるカウンセリングなど相談・支援体制を充実します。



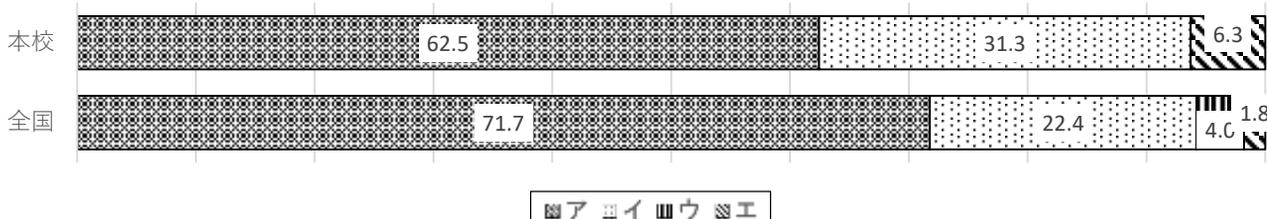
Q 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。

全国と比べて、肯定的回答な回答をしている児童が多いという結果が出ています。また、「国語の授業の内容がよくわかりますか」という質問に対しては81%の児童が、「国語の勉強は大切ですか」という質問に対しては91%の児童が肯定的な回答をしており、学習に対する意欲がうかがえます。



Q 算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。

94%を超える児童が肯定的な回答をしています。また、「算数の勉強は大切ですか」という質問に対しても91%の児童が肯定的な回答をしており、学習に対する意欲がうかがえます。



7 今後の取組

① 主体的・対話的で深い学び

- ◆ 児童が課題に興味を持って取り組める授業を推進します。
 - 日常生活や既習内容と関連させて課題を設定する。
 - 相手意識を持って、意欲を持って自己表現をする。
- ◆ 児童が主体となって課題解決に向かう授業を推進します。
 - 課題解決に向けた見通しを持つ。
 - 自分の学びの変容を感じ、自分の学びを自覚できる振り返りを設定する。
- ◆ 友だちと学びあいながら課題解決に向かう授業を推進します。
 - 友だちの意見を受け止め、自分の意見と比較し自分の考えをまとめる。
 - 学び合いを促す支援(声かけ、ICT、思考ツール)を活用する。

② 個別指導の充実

- ◆ 朝のスタディタイムを継続し、基礎基本の定着と充実を図る。
- ◆ 新学習システム教員と連携し、理解度や定着度に応じた支援を進める。
- ◆ 高学年を中心に、少人数学習や個別の学習をおこない、基本的な学習内容を確実に習得する。

③ 学習への意識改革

- ◆ 児童が主体的に授業に参加し、「わかった」「できた」と実感できる授業を進める。
- ◆ 児童が相互に話し合い、関わり合いながら学びを深めていく。
- ◆ 先生から教えてもらうという意識から脱却し、自ら課題を解決するよう取り組む。

④ 自尊感情の高揚

- ◆ 「たちばなの木」など、できたことをたたえ、お互いを認め合う活動を推進する。
- ◆ 授業の中でほめる指導を継続し、さらに自尊感情を高めていく。
- ◆ スモールステップで課題に取り組ませ、学習意欲を高めるような評価をおこなう。

⑤ 学習基盤としての学級づくり

- ◆ 人権教育を中心にすえた学級づくりを進め、安心できる居場所を作る。
- ◆ 安心して発表したり意見を聞き合ったりしながら、学びに向かう集団作りをする。
- ◆ 一人ひとりが安心して、認め合える雰囲気づくりを進める。

保護者の皆様へ

- ◆ 努力やがんばりを認めて、笑顔でほめる言葉かけを増やしましょう。
- ◆ 学校のことや勉強のことなど、子どもと一緒に話をしましょう。
- ◆ 家庭学習は時間を決めて、毎日学習できるよう習慣づけましょう。
- ◆ 地域の行事に進んで参加させ、体験活動の機会を増やしましょう。